

平成25年度

(第1/3回)

(集団研修)

地域住民の参加による多様な森林保全

実施要領

平成25年8月

独立行政法人国際協力機構(JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	6
11. その他	6

参考資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 研修日程表(案)

付表－3 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文:(集団研修)地域住民の参加による多様な森林保全

英文:Group Training Program on “Various Forest Conservation with Community Participation”

(2) 受入期間

平成 25 年 8 月 13 日(火)～ 11 月 16 日(土)

(3) 技術研修期間

平成 25 年 8 月 19 日(月)～ 11 月 15 日(金)

(4) 定員、割当国

定 員:14 名 (受入数 14 名)

割当国: ブルキナファソ、カンボジア、エチオピア、インド、ケニア、ラオス、マラウイ、ミャンマー、ネパール、パプアニューギニア、タンザニア、東ティモール、タジキスタン、中華人民共和国、タイ(下線は受入国)

(5) 研修類型: 人材育成普及型

(6) 使用言語: 英語

2. 案件の背景・目的

森林資源の重要性が認識されて久しく、その森林資源が人類のために有効に利用され、再生されることの必要性を多くの世界の人々が認識することが重要である。このため、本案件では、

- ①わが国の森林の歴史と役割、森林行政、住民の参加などによる森林の保全・造成に関する制度、取組みの理解、
- ②森林資源と人間活動が共生可能な森林施業、森林造成、利用技術に関する知識、技術習得

を講義、実習、視察を通じた本邦研修により参加者に提供し、開発途上各国にて森林の保全、人間と森林の共生、森林造成、育成促進に貢献できる中核人材を育成することを目的とする。

3. 案件目標

森林保全などの事業を地域住民参加型で実施するために必要な普及指導方法が、所属組織の関連部署に共有される。

4. 単元目標

- (1) 地域住民の参加による多様な森林保全が効果的に成果を生み出す手法を説明できる。
- (2) 森林資源の把握と森林の活用手法を実践できる。
- (3) 森林の生物多様性保全上の役割を説明できる。
- (4) 習得した森林・林業に関する知識・技術を実践できる。

5. 研修成果品

(1) 本邦研修実施前

「初期報告書(Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦での研修開始時に発表する。

(2) 本邦研修終了時

「中間報告書(Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に活動計画(案)を作成し、本邦研修終了時に発表する。

(3) 帰国後の事後活動

「最終報告書(Final Report)」の作成

研修員は帰国後、中間報告書に書かれた活動計画(案)を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な活動計画(案)をまとめ、帰国後3ヶ月以内に JICA 北海道(帯広)に提

出する。JICA 北海道(帯広)は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修項目に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

6. 研修員参加資格要件

(本案件資格要件)

- (1) 森林保全にかかる普及活動に従事している者。
- (2) 森林保全管理を含めた森林・林業の基礎的知識を有し、森林保全など関連業務を 3 年以上経験した者。
- (3) 野外活動が多いため、十分な体力がある者。

(各案件共通資格要件)

- (4) 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- (5) 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- (6) TOEFL iBT 72 点 (CBT 200 点 / PBT 533 点) 以上に相当する英語能力を有すること。
- (7) 心身ともに健康なこと。
- (8) 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構北海道国際センター(帯広)が計画するコースの実施に関する業務を一般社団法人海外林業コンサルタンツ協会(JOFCA)に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。研修期間中、JICA は研修監理員を配置する。

具体的な業務分担は次のとおり。

- (1) JICA

ア. 研修計画作成

イ. 評価

ウ. 実施予算の確保、執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) JOFCA

ア. 日程表の作成・調整

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

研修目標に向け、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を
確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 北海道(帯広)、JOFCA が参加し、研修の目
的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応

方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後にJICA北海道(帯広)で実施する。JICA業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

JICA北海道(帯広)にて、日本の社会と日本人、日本の政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として7.5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程(予定)

日 程	内 容
8月14日(水) 夕刻	ブリーフィング ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の政治・行政機構」 日本語研修
15日(木) 午前 午後 夕刻	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の経済」 講義「日本の教育」 日本語研修
16日(木) 夕刻	日本語講習

10. 主な宿泊場所

北海道国際センター(帯広)

所在地: 〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel(0155)35-1210 Fax(0155)35-1250

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

研修員関連情報

■研修員情報(英語力はリスニング/スピーキング/読解/記述能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① BAZIE, Grégoire ② D-13-03673 ③ 51 ④ 男性 ⑤ ブルキナファソ	① 環境・持続可能開発省 保護区域管理局 計画および事後アセスメント担当 ② 3年9ヶ月 ③ 国立水資源森林学校 林学 水資源森林管理 07年 ④ BBBB ⑤ (記載なし)	① 森林の保護、保全、活用に関する以下の活動の計画 ・地域の住民および協力者を含めた、森林保全に関する意識啓発、研修、見返りのある競争 ・学校での環境教育 ② 保護区域管理局は、生物多様性を保全し、砂漠化を防ぎ、かつブルキナファソの持続可能な経済発展を支援するための森林および野生生物資源の持続可能な管理という枠組みにより、国の森林政策ガイドラインの実施を推進する。具体的には以下の通りである。 ・中央政府および地方政府の持続可能な森林管理を確保 ・森林および野生生物資源への参加型管理の強化 ・政府、地方政府、市民社会組織、および民間企業間の提携を推進 ・貧困対策の手助けになるような、森林資源および野生生物の管理のためのあらゆる活動の支援 ・保全を実現するために理想的な資金援助システムの構築	(組織の目的と関連として) ・多様性のある森林保全の能力を強化すること ・地域住民の参加により森林保全のための様々なツールを使いこなす知識の改善 ・地域社会も含めた森林保全に関する全計画をよりよく行えること ・政策、および経済と持続可能な環境の活用のための枠組みの計画への貢献 (特に関心がある項目) ・様々な森林保全、特に持続可能な造林についての他国での手法や戦略を新たに学ぶこと、ブルキナファソでの経験を共有することにより、自国において新たな違いを創造することができ、そのことが結果を導き出すこと ・日本および他の参加国との提携関係の構築 ・他の国の人々がどのような暮らしをしているかということに関して視野を広げること
2	① OUEDRAOGO, Alexandre Nenkompasoboum ② D-13-03674 ③ 33 ④ 男性 ⑤ ブルキナファソ	① 環境・持続可能開発省 中東部地域局 サービス部部长 ② 2年 ③ ワガドゥグー大学 生物科学 修士号 09年 ④ BCBC ⑤ (ワガドゥグー) 2ieファウンデーション・DANIDA 水資源および環境の統合的管理 12年	① 研修、啓発、支援、指導などのサービスの手配と実行 ・保有証券による森林収入の回収 ・四半期毎の報告書、およびサービスに関する文書の作成 ② 環境および持続的な発展に関する国策の実施とモニタリング	(組織の目的と関連として) ・地方での地域森林および部署における開発と保全のための支援、指導活動を行うことにより、所属部の政策を押し進めること (特に関心がある項目) ・持続可能な開発のための森林資源の保全と物価安定政策 ・地方の貧困の抑制 ・生態系に優しい活動の推進
3	① CHAN, Ratha ② D-13-03407 ③ 30 ④ 女性 ⑤ カンボジア	① 農林水産省 森林局 森林・地域住民部 地域開発職員 ② 4ヶ月 ③ プンペン王立大学 統合管理・地域開発 修士号 08年 ④ AAAB ⑤ ・NIRAS(デンマーク) 持続可能な天然資源管理 12年 ・RECOFTC & ASFN(インドネシア) 気候変動における地域林業の導入 12年 ・コンケン大学(タイ) 農業部門バリューチェーン 11年 ・RECOFTC & ASFN(ベトナム) ASEAN地域の政策とガバナンス(林業と気候変動の関連性) 11年 ・AFPNet(中国) 気候変動における地域林業 11年	① 地域林業(CF)のための研修の実施 ・地域林業(CF)のための生計の支援 ・天然資源と社会経済の調査研究 ・地域林業(CF)管理計画の目録と策定 ② 森林局は農林水産省傘下の政府機関であり、森林、特にカンボジアの国策である林業部門政策および森林法の優先に則り、国内の森林資源の保護および持続可能な管理を強化する森林マネジメントの責務を担う。主な職務は以下の通りである。 ・森林資源管理と保全 ・森林の区分け、分類、および登録 ・森林法の執行とガバナンス ・森林の持続可能な活用のための地域林業の創造と管理 ・地域住民の能力開発と研究開発 ・生物多様性保全	(組織の目的と関連として) 地域林業開発に携わって4年ほどになるが、地域の住民と密接に取り組み、地方森林管理局とNGOとの協力体制も作っている。地域住民に森林保全と管理に参加し、その活動から収益が得られるように呼びかけている。 上記の目標の達成の上で、この研修は関連性が大きく重要である。 ・日本の実地での新しい技術に関する知識の向上 ・研修期間中に14カ国(の参加者から)の経験を分かち合うこと (特に関心がある項目) ・森林管理および保全 ・地域社会を基本とした天然資源管理 ・地域林業開発 ・生物多様性と生態系 ・研修技術

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
4	① DE ARAUJO, Juliao ② D-13-04094 ③ 45 ④ 男性 ⑤ 東ティモール	① 農業水産省 森林局 林業部 地域林業コーディネーター ② 1ヶ月 ③ ポゴール農業大学 造林学 第1段階学位 11年 ④ BBBB ⑤ ・RECOFT(タイ) 地域社会のためのファシリテーションスキル 01年 ・商務省(中国) 土壌水資源保全および乾燥地農業のための国際セミナー 08年	① 地域林業およびアグロフォレストリーによる国内の土壌劣化の減少 ② 森林再生部部長の、特に地域社会林業の分野における計画、分析、実行業務を支援する。	(組織の目的と関連として) 日本の柔軟な管理手法について実地での経験を得たい。 (特に関心がある項目) 多様な森林保全により、人間の生活のために国土と水資源を守ることができる。
5	① DA COSTA INACIO, ② D-13-04095 ③ 25 ④ 女性 ⑤ 東ティモール	① 農業水産省 森林局 保護部 森林保護管理官 ② 1ヶ月 ③ ETCI(東ティモールコーヒー大学)修了証(専攻載なし) 12年 ④ BBBB ⑤ BLK-KUPANG(インドネシア) 天然資源管理保全 09年	① 国内の森林資源の保護のために、地域参加の技術によって森林局保護部を支えること ② ・森林資源の持続可能性を確保すること ・森林資源に損害を与える森林火災を防ぐこと ・東ティモールのマングローブなどのその他の森林資源の保護	(組織の目的と関連として) 地域住民の参加による多様な森林保全の方法、特に国内の森林と天然資源の保護について学ぶこと (特に関心がある項目) 森林と天然資源を保護するための、地域住民参加型の森林保全管理の推進と習得
6	① GEMEDA, Bona Yadessa ② D-13-03508 ③ 38 ④ 男性 ⑤ エチオピア	① 農地・環境保護局 計画・モニタリング・評定部門担当官 ② 3年4ヶ月 ③ ハラマヤ大学 農村開発 修士号 12年 ④ BBBB ⑤ (記載なし)	① (記入がなかったため関連職務経験より) ・州レベルでの農業開発専門家および地域レベルでの森林資源専門家 ・環境教育の専門家 ② 天然資源、環境保護、近代的な土地利用、オロミア州行政の確実な実行	(組織の目的と関連として) 所属組織の業務に関連する地域住民参加型の森林保全の実践的知識と経験を、特に日本からと(研修参加の)他国からも習得する。 (特に関心がある項目) ・地域住民による森林保全とイニシアチブ ・PCM手法とアクションプランの作成

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
7	① SHARMA, Mahabir Prasad ② D-13-04057 ③ 54 ④ 男性 ⑤ インド	① ハリヤーナー州 森林局 森林・野生生物・エコツーリズムサークル管理官 ② 5年6ヶ月 ③ イェール大学(米国) 環境管理学 修士号 12年 (習得科目) ・地球資源と環境 ・リーダーシップ ・天然資源 ・持続可能な開発 ・気候変動 ・エネルギー企業 ・環境管理と戦略 ・気候変動の法則 ・国際環境法と政策 ・環境法の比較 ・河川過程と復旧 ・国際コミュニケーションスキル ④ AAAA ⑤ ・イェール大学(米国) 中間キャリア研修プログラム 10年 ・同 環境管理学 修士号取得 12年(同上)	① ・国土の半分の面積に及ぶ保護地域内の生物多様性、森林、野生生物の発展、保護、保全という公的利益のための活動・業務を監督、管理 ・国の森林政策の実施の一環としての地域住民参加を促進するためのコミュニティベースのエコツーリズムの開発 ・職務遂行、インフラ設備の構築、維持管理業務のための資金管理 ・これらの活動のための政策案の作成、および政府レベルでの実施 ・プロジェクトの構築と、それに対する高いレベルでのフォロー業務 ・年間業務計画ベースでの資金配分、および予算管理担当官として現場でのその適切な使途の財政管理 ・業務遂行のための現場への人材の配置と管理 ・民衆キャンプや様々な活動での研修を通じて、意識向上キャンペーンの手配・計画を監督 ・人材管理、開発、および人事業務 ・現場業務のモニタリングと評価、資金利用の会計監査、現地調査による現場業務の執行頻度の監督 ② ・森林、野生生物生息域などの天然資源の保全 ・土壌と水資源の保全 ・森林と地域住民の土地に植林農園を構築 ・アグロフォレストリーの促進 ・林業活動による貧困の緩和 ・政府の2020年までの目標である生物多様性の保全と国有林の20%増加のために最優先事項とされる、地域住民の積極的な参加による森林保全と意識向上キャンペーンの実施 ・そのプログラムの有効な実行のための有能な担当者人材開発のための研修 (急激な発展を続けるハリヤーナー州では、地域住民の参加が持続可能な森林保全を成し遂げるための唯一の選択肢である。)	(組織の目的と関連として) (国内外での森林管理の理論と実践、情報更新研修・ワークショップ・セミナー・住民参加関連の研修プログラムでの習得などの、今までの経験から踏まえて) ・国際的な専門家および他国からの研修員との意見交換、フィールドツアー・宿泊などにより、自らの知的な視野が広がり、地域のより効果的で持続可能な住民参加のモデルを構築するスキルを習得することができる。 ・それにより、森林プロジェクトの計画や実行の取り扱いのスタイルも改善される。 ・講義中およびフィールドでのリソースパーソンとの国際的な露出により、視野が広がり、地域住民参加による天然資源開発に関連するプロジェクトの計画と実行の改善も図ることができる。 (特に関心がある項目) ・参加型手法を促すために適用される様々な現場のモデル ・フィールドツアー中の地域住民との交流 ・様々な国からの研修員との経験の共有 ・リソースパーソンとの関連事項についての意見交換 ・最新技術の利用 ・地域での成功例から学ぶこと
8	① OLUGA, George Onyango ② D-13-04211 ③ 48 ④ 男性 ⑤ ケニア	① ケニア森林サービス 森林普及業務課 主任 森林管理官 ② 3年10ヶ月 ③ モイ大学 林学 理学士 08年 ④ AAAA ⑤ (記載なし)	① ・森林への負担を軽減するために、農地で苗木を育てて林産品を作ることを農民に指導し支援すること、およびASAL(乾燥・半乾燥地域)の森林資源の管理 ・参加型森林管理技術を活用しての森林保全の戦略構築および実施 ・劣化した森林の再生と天然資源の保護 ・地域住民および重要な関係者に対する参加型森林管理サービスと情報の提供 ・バイオ燃料開発とその規則・規定の立案、手配、実行 ② 環境の安定と社会経済発展のための森林とそれに伴う資源の保全と持続可能な管理を強化すること	(組織の目的と関連として) ・公共の利益のために、劣化した森林地帯を参加型で再生を図るための様々な手法(これは、森林の周囲に住む地域住民と、その他の重要な関係者がかかわることによって成し遂げられる) (特に関心がある項目) ・地域住民の参加による多様な森林保全の実践から、効果的な結果を導き出す技術 ・森林資源および森林の有効性を確実にする手法 ・生物多様性における森林の果たす役割への理解 ・森林と林学分野において習得した知識とスキルを活かした活動が実行できるようになること

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
9	① XAYALATH, Singkone ② D-13-04054 ③ 38 ④ 男性 ⑤ ラオス	① 林業科学研究センター(FSRC) 国立農業林業研究所(NAFRI) 植物学・植物生態学部部长 ② 7ヶ月 ③ カセサート大学(タイ) 森林生物科学 修士号 11年 ④ BBBB ⑤ ・フィリピン林野庁 生物多様性研究および保全計画研修 02年 ・(タイ)チェンマイ大学 森林再生の原則と実践 05年 ・ラオス大学 国内の生物多様性保全エリアにおける植物調査研修 05年 ・(タイ)コンケン大学 アグロバイオシステム 07年	① ・植物種およびNTFP(非木材林産物)の調査と同定 ・地域住民の収入に繋がる植物種およびNTFPの情報提供 ・最前の管理(保全)のための希少種、国際自然保護連合(IUCN)や絶滅危惧種の国際間の商取引に関する協定(CITES/ワシントン条約)のリストに該当する植物種の情報提供 ② ラオスの持続可能な発展への貢献をふまえて、森林の保全、管理、林産資源の活用にかかわる全ての関係者に対する適時でコスト効率の高い研究や指導を提供し、様々な研究機関による研究成果を効果的にとりまとめること	(組織の目的と関連として) ・FSRCの研究活動の手助けとなるように、知識を向上すること ・能力の高い人々や同じ分野で働く他の人々からより多くを学ぶこと (特に関心がある項目) 地域住民の収入のための樹木およびNTFPの研究とマッピング ・市場および伝統の理解を深めるための可能性の調査、およびそれによる適切な生産システム、管理、回収の開拓、およびNTFP植物の保護と植生マッピング ・将来的な開発可能性、市場、社会的影響、ラオスの樹木とNTFPの状態を念頭に、NTFP種のマッピングと分析を行うこと ・ラオスの樹木およびNTFP種活用の将来的な拡大と適切な管理のための情報収集
10	① JAMALI, Lonny Nancy ② D-13-03908 ③ 28 ④ 女性 ⑤ マラウイ	① 環境・気候変動管理省 森林局 森林普及担当官 ② 2年2ヶ月 ③ ブンダ農業大学 林学 理学士 09年 ④ BBBB ⑤ ・(インド)国立農村開発研究所 持続可能な生計のための流域管理 13年	① ・森林政策法律の解釈と執行 ・地域に根ざした森林管理指導の提供 ・林業関連の情報の作成と広報 ② 社会経済発展のための森林資源、商品、サービスの持続性のある管理、開発および活用における全ての関係者への指導と、取りまとめ、普及、積極的な参加を促すこと	(組織の目的と関連として) ・(日本における)森林保全に活用される手法と戦略をできるだけ多く学ぶこと ・地域住民参加に関して、他の国々でも手法と戦略がどのように活用されてきたかを知ること ・これらが、マラウイの状況にどのように活かすことができるか (特に関心がある項目) ・地域住民が全面的に森林保全に参画できるように動員させるテクニック ・どのように持続可能な森林管理を実現するか
11	① Aung Ye Win ② D-13-03275 ③ 33 ④ 男性 ⑤ ミャンマー	① 環境保全林業省 森林局 林野管理官 ② 7年7ヶ月 ③ 林学大学 林学 理学士 05年 ④ BBBB ⑤ JICE 東アジア青少年大交流計画(JENESYS) 12年	① ・地域住民の参加によるコミュニティ森林の確立 ・土地利用計画および土地利用管理の準備 ・地域住民を森林の保全と利用に参加させることができる普及計画の策定 ② ・生物多様性の保護と保全 ・劣化した森林の修復 ・流域の保全 ・持続可能な国内の森林資源の管理 ・以上を、住民および民間企業の積極的な参加によって、持続可能な森林管理へと導くこと	(組織の目的と関連として) ・研修プログラムを通して、森林保全の知識とスキルを習得し、かつ他国の研修員との共有をすること ・様々な国々の研修員と共有することにより、参加型の考え方、手法、システムについての専門知識を向上すること ・森林保全と管理および生物多様性の保全のための、最新のツールや手法を習得すること ・他国の研修員とともに日本の文化や発展について学ぶこと ・地域住民参加型手法による、多様な森林保全のための効果的かつ効果的な方法を習得すること (特に関心がある項目) (記載なし)
12	① SHAH, Manohar Kumar ② D-13-03731 ③ 52 ④ 男性 ⑤ ネパール	① 森林土壌保全省 土壌保全流域管理局(タナフン)郡土壌保全管理官 ② 5年3ヶ月 ③ フィリピン大学 社会林学および森林資源管理 理学修士 00年 ④ BBBB ⑤ ・日本福祉大学(名古屋) 参加型地域社会開発のプロジェクト計画と管理(集団研修) 04年 ・(カナダ)モザイクネット・インターナショナル 上級ファシリテーター研修 01年 ・同 参加型モニタリングと評価ワークショップ 01年	① ・郡内の地下流域の調査と同定、および流域資源(森林、土壌、水)の優先順位決定と管理 ・郡レベルでの天然資源保全活動の計画と実施 ・オフィス長としてのリーダーシップ ② ・参加型手法を適用して森林と流域を持続可能な開発のために管理すること ・雇用を創出し、植生、薬草、流域の生物多様性を保全し、森林ベースの企業を開拓することにより、貧困を減少すること	(組織の目的と関連として) ・天然資源(共同)管理官として、天然資源の持続可能な管理のために、森林と社会文化的概念を統合するのに役立つコンセプト、手法、技術を視察して習得すること (特に関心がある項目) ・日本の様々な地相における林業と農業の繋がり ・様々な研究レベルにおける森林ガバナンス ・森林管理に携わる多様な関係者の機能的な関係 ・日本において適用されている森林保全の様々な手法 ・日本における効果的な地域住民参加型の森林保全の技術の実践 ・日本における生物多様性に対する危機とそれに対する取り組み ・その他の関連項目

No	①氏名(姓,名)②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
13	① PUNDU, Kilitol ② D-13-03911 ③ 43 ④ 男性 ⑤ パプアニューギニア	① 森林公社 森林局・フィールドサービス 主任 造林担当官 ② 10年2ヶ月 ③ パプアニューギニア技術大学 林学 理学士 95年 ④ ABAB ⑤ (記載なし)	① ・(天然林管理)支局長に、予算見積もりも含めた年間業務計画の作成の補佐 ・予算内での年間計画をもとに、月毎の全ての業務計画を作成 ・資金の支出や返却とプロジェクトの実行をコーディネートすることにより、それぞれのプロジェクトの担当者を支援 ・その他の指示された業務および支出の記載された四半期毎のプロジェクト実行報告書を作成 ② パプアニューギニア国民全体の利益のために、天然資源の保護と最大限の活用を行うこと	(組織の目的と関連として) ・国内全部の既に伐採された(森林)地域の持続可能な森林管理を改善すること ・他の地域での森林保全の取り組みを観察し、よりよい方法を取り入れることにより上記の目標を達成することが、最重要かつ最優先である。 (特に関心がある項目) ・他の参加研修員たちから、および現場視察や講義でとりあげる日本の取り組みから、様々な持続可能な森林管理の方法を習得できること ・長期間または永続的な視野の森林管理を実施可能にするための、地域住民の参加や長期土地所有システムなどに関して、土地の収容を可能にする政策や法律についてもっと知りたい。
14	① KIULAH, Shaaban Feruzi ② D-13-03274 ③ 47 ④ 男性 ⑤ タンザニア	① 天然資源観光省 タンザニア森林サービス局 西部支局 地域森林普及広報担当官 ② 3年1ヶ月 ③ ソコイネ農業大学 林学 理学士 06年 ④ BBBB ⑤ (南アフリカ)国立消防研究所 地域社会レベルでの防火関連および消防 11年	① ミーティング、研修、ビデオ、ラジオやテレビ番組、雑誌制作などを通じて、森林および蜂の資源保全に関する情報の普及 ② タンザニアの森林および蜂の資源の保全、持続可能で質の高い森林および養蜂生産、サービスの供給の中心を担う機関	(組織の目的と関連して) この研修により、自らの森林普及と広報に関する実務的な知識が拡大し、より新たな情報や必要とされる専門知識を習得し、広めることができる。 新しい知識をもとにした情報を普及するために役立つであろう。 (特に関心のある項目) ・(募集要項に)記載されている研修内容、特に森林管理における地域住民の参加は、自らの日常業務に直結している。

平成25年度(集団研修)「地域住民の参加による多様な森林保全」コース
Various Forest Conservation with Community Participation

技術研修期間:平成25年8月19日(月)から平成25年11月15日(金) 89日間 (来日8月13日・帰国11月16日) 14名

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
8/13	火			来日	JICA北海道(帯広)	帯広
8/14	水			ブリーフィング/オリエンテーション	"	"
8/15	木			ブリーフィング/オリエンテーション/日本語研修	"	"
8/16	金			日本語研修	"	"
8/17	土			日本語研修	"	"
8/18	日			休日		"
8/19	月		(OBIC←→市役所)	市長表敬(9:15~9:45) コースオリエンテーション(10:30~11:30) 研修員とのディスカッション(13:30~16:00)	帯広市市民活動部親善交流課長 JICA/JOFC A 参与 長縄肇	"
8/20	火		インセプションレポート発表会	インセプションレポート発表会 (15分/人×14人)(9:30~12:00, 13:30~16:00) ティーパーティー(16:00~)	JICA/JOFC A 参与 長縄肇	"
8/21	水	講義	日本の森林・林業の概要	日本の森林・林業の現状と課題及び展望 (10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFC A 参与 長縄肇	"
8/22	木	講義	日本の森林・林業の概要	①日本の林政を担う組織と機能 ②森林関係の法律と森林計画制度 (10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFC A 参与 長縄肇	"
8/23	金	講義 視察	(OBIC←→現地) 地方行政と森林	帯広市の森林施策・緑化事業及び緑の環境モデル都市の概要 (10:00~12:00:講義/13:30~15:30:視察)	帯広市都市建設部 みどりの課みどりと花の係 渡部 愛	"
8/24	土			休日		"
8/25	日			休日		"
8/26	月	講義 視察	a.m.日本の森林・林業の概要	①日本の造林技術(種苗) ②日本の造林技術(造林) (10:00~12:00),(13:30~16:00)	JOFC A 参与 長縄肇	"
8/27	火	実習 視察	(OBIC←→現地) 地方行政と森林	帯広の森・はぐくむ (帯広の森の育成管理、利活用の拠点施設) 間伐、木工実習(10:30~12:00, 13:30~15:30)	帯広市都市建設部 みどりの課みどりと花の係 渡部 愛	"
8/28	水	講義 討論	森林保全と人間活動の共生	人々と森林ー日本の土地所有制度と森林 (10:00~12:00,13:00~16:00)	技術士 岡部 廣二	"
8/29	木	視察	(帯広←→新得) 森林資源の持続的利用	椎茸ほだ木施設 (9:30~10:30) 椎茸出荷センター他(11:00~12:00,13:00~14:30)	新得町農林課林務係長 大山康幸 新得町しいたけ生産組合副組合長 関根 悦朗	"
8/30	金		振り返り①	自国/担当地域の森林管理にかかる現状と課題をテーマに 研修員間で情報交換、議論(10:00~12:00,13:30~15:30)	JOFC A 参与 長縄肇	"
8/31	土			休日		"
9/1	日			休日		"
9/2	月	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)分析	JOFC A 参与 長縄肇 /主任研究員山下 昌 - 研究員 /松本さほり	"
9/3	火	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)分析	JOFC A 参与 長縄肇 /主任研究員山下 昌 - 研究員 松本さほり	"
9/4	水	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)分析	JOFC A 参与 長縄肇 /主任研究員山下 昌 - 研究員 / 松本さほり	"
9/5	木	講義 実習	参加型手法	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00)分析	JOFC A 参与 長縄肇 /主任研究員山下 昌 - 研究員 /松本さほり	"
9/6	金	講義 実習	参加型手法 討論	PCM手法(10:00~12:00,13:00~16:00) 実践(含むモニタリング手法)	JOFC A 参与 長縄肇 /主任研究員山下 昌 - 研究員/松本さほり	"
9/7	土			休日		"
9/8	日		(帯広→えりも)	休日		えりも
9/9	月		(えりも→帯広) 森林保全と人間活動の共生	えりも緑化事業(9:00~11:30) 地域住民との対話集会(12:30~15:00)	日高南部森林管理署 署長 野藤 昌弘 流域調整官 藤嶋 辰昇 統括治山技術官 平井 英明 主任治山技術官 佐藤 可菜 えりも町役場 産業振興課長 三戸 充 えりも町漁業協同組合 ひだか南森林組合 JOFC A 参与 長縄肇	帯広
9/10	火	実習	(帯広←→糠平) 森林資源の把握	森林情報収集(10:30~12:00,13:00~15:00)	日本森林林業振興会札幌支部 帯広支所 松原 康時	"
9/11	水	講義 視察	(帯広→本別→足寄→阿寒) 日本の森林・林業の概要	国有林の森林経営(10:30~12:00,13:00~15:30)	十勝東部森林管理署 署長 横山 誠二 主任森林整備官 溜井 将乃 統括治山技術官 藍原 健	阿寒
9/12	木	講義 視察	(阿寒→釧路) 森林保全と人間活動の共生	民有林における森林保全活動(10:30~15:00)	前田一步園財団 係長 酒井 賢一	釧路
9/13	金	講義 視察	(釧路←→標茶) 森林造成技術	パイロットフォレスト (10:30~12:00, 13:00~15:30)	根釧西部森林管理署 署長 佐藤 稔 地域林政調整官 加納 正幸 真竜森林官 長谷川 学 滝の上第二森林官 岡本 聡	"
9/14	土	講義 視察	森林の生物多様性保全の 状況 湿地生態系保全	湿地における野生生物保護(10:00~12:00) 釧路湿原視察(13:00~15:00)	(株)猛禽類医学研究所 代表・獣医師 斉藤 慶輔 釧路湿原展望台(長縄)	"
9/15	日			休日		"

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
9/16	月			休日		〃
9/17	火	講義 視察	(釧路→浦幌→豊頃→帯広) 日本の森林・林業	①道有林の森林施業 ②大断面集成材を使用した庁舎の紹介 (13:00～15:30)	北海道十勝総合振興局森林室 森林整備課長 田村 修一	帯広
9/18	水	講義 視察	日本の森林・林業の普及	日本の森林・林業技術普及の概要及び 普及方法並びにケニア等諸外国等の森林・林 業ケーススタディーの事例 (10:00～12:00,13:00～16:00)	JOFCA 参与長 縄肇	〃
9/19	木		(帯広市→下川町)			下川町
9/20	金	討論	森林造成技術	FSC森林認証取得に至るプロセスと評価及びカラマツ・トドマ ツCoC取得の製材工場(10:00～12:00,13:00～16:00)	下川町森林組合 業務課課長補佐 渡辺大介	下川町
9/21	土		(下川町→札幌)			札幌
9/22	日			休日		〃
9/23	月	講義	森林の生物多様性保全の 種々の状況	森林と海洋(10:00～12:00,13:00～16:00) (講義場所: JICA北海道)	北海道大学名誉教授 松永 勝彦	〃
9/24	火	講義 視察	(札幌→富良野→札幌) 森林資源の持続的利用	東京大学演習林の森林経営法 東大演習林概要・林分施業法 (10:30～12:00,13:00～15:00)	東京大学演習林 林長 芝野 博文	〃
9/25	水	講義	森林資源の持続的利用	北海道森林管理局表敬訪問(9:20～9:30) 講義: 北海道の国有林概要(9:30～11:00) 北海道庁表敬訪問(11:30～12:00)	北海道森林管理局企画調整部 企画課長 竹中 篤史 林務局長表敬 担当: 主査(国際交流) 遠藤 智樹	〃
9/26	木	講義 視察	(札幌←→支笏湖) 森林資源の持続的利用	北海道森林管理局の森林施業 (10:00～12:00,13:00～15:30)	北海道森林管理局企画調整部 企画課長 竹中 篤史 総務企画係長 土屋 修久	〃
9/27	金	講義	(札幌←→美唄) 午前: 森林資源の持続的 利用 午後: 森林資源の把握	持続可能な天然林施業のための更新戦略(10:30～12:00) 森林資源把握方法 (森林GISの概要-GISに必要なデータの取り方を含めて) (13:00～15:00)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構研究本部 林業試験場 森林資源部経営グループ主査 大野泰之 研究主任 滝谷美香 森林環境部環境グループ 主査 菅野 正人	〃
9/28	土			休日		〃
9/29	日			休日		〃
9/30	月	講義	午前: 地方行政と森林 午後: 森林の生物多様性保全の 種々の状況	北海道の森林行政(10:00～12:00) 北海道の自然環境科学研究(13:30～15:30) (講義場所: JICA北海道)	北海道庁水産林務部林務企画グループ 主査 佐川能人、森林 環境局森林活用課 みどり対策グループ主査 蔵中 直樹 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 環境・地質研 究本部 環境科学研究センター 自然環境部 研究主幹 宇 野裕之	〃
10/1	火	講義 視察	(札幌←→江別) 森林の生態・生物多様性	育種と森林の遺伝資源(10:30～12:00,13:00～15:30)	独立行政法人森林総合研究所林木育種センター 北海道育種場 育種課長 山田 浩雄	〃
10/2	水	講義 視察	森林資源の持続的利用	森林施業の基礎知識(10:30～12:00,13:00～15:30) (場所: 森林総合研究所/午前: 講義・午後: 視察)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 産学官連携推進調整監 森員 和仁	〃
10/3	木	講義	森林の生態・生物多様性	森林植生(10:30～12:00) 森林動物(13:30～15:30) (講義場所: JICA北海道)	独立行政法人森林総合研究所北海道支所 森林育成研究グループ長 飯田滋生 森林生物研究グループ主任研究員 石原 誠	〃
10/4	金	表敬 講義 視察	(札幌←→旭川) 森林資源の持続的利用	北海道林産試験場 場長表敬(11:00～11:10) ①「木材利用と材質」(11:10～12:00) ②北海道における林産物の利用 「林産試験場の概要と木材利用の有効性」 (13:00～13:40) ③「ヤナギの植栽によるエタノール生産」(13:40～14:20) ④施設案内(14:20～15:30)	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 森林研究本部 林産試験場場長 松尾 博 利用部マテリアルG主査 佐藤 真由美 利用部マテリアルG研究主幹 石河 周平 利用部バイオマスG主査 本間 千晶 企業支援部普及調整G主査 三好 秀樹	〃
10/5	土	講義 視察	森林の生物多様性保全の 種々の状況	市民と自然とのふれあい (自然ふれあい交流館) (13:30～15:30)	自然ふれあい交流館副館長 松井則彰 普及啓発員 扇谷真知子	〃
10/6	日	移動	(札幌→帯広)	休日		帯広
10/7	月	講義	海外における 日本の森林・林業協力	JICAによる林業協力 (10:00～16:00)	JICA地球環境部第一グループ	〃
10/8	火	講義 討論	森林保全と人間活動の共生	住民参加による森林管理 (10:00～12:00,13:00～16:00)	北海道大学大学院農学部 教授 柿澤 宏昭	〃
10/9	水	講義 視察	森林資源の持続的利用	落葉広葉樹林施業研究 (10:30～12:00,13:00～16:00)	九州大学北海道演習林 林長 久米 篤	〃
10/10	木	講義 視察	森林資源の持続的利用	木質バイオマスエネルギー利用(ペレットの製造及び利用) (10:00～12:00) バイオマスエネルギーの利用(13:00～14:30) ペレット工場(15:00～16:00)	足寄町長 阿久津 勝 経済課林業商工観光室地域資源エネルギー担当主査 村石 靖 マルシウ技研 (株)代表取締役 菅原 智美 中島 さん	〃
10/11	金	視察	学校訪問	国際交流の推進(Aグループ10:35～12:10鹿追町立瓜幕 小学校、Bグループ10:05～13:45幕別町立途別小学校)	JICA北海道(帯広)	〃
10/12	土			休日		〃
10/13	日			休日		〃
10/14	月			休日		〃
10/15	火	講義/視察 討論	森林造成技術 インテリムドラフト作成指導	苗圃・苗木づくり(9:30～12:00) インテリムレポートドラフト作成指導 (14:30～16:00)	(有)大坂林業 代表取締役 大坂和雄 JOFCA 参与 長縄肇	〃

付表-2

月日	曜日	形態	項目	プログラム	講師または担当機関	宿泊
10/16	水	討論	インテリムレポート作成指導	インテリムレポート作成指導 (10:00~12:00,13:30~16:00)	JOFCA 参与 長縄肇	〃
10/17	木	講義 視察	(帯広←芽室) 森林保全と人間活動の共生	森林組合の活動(含む木材等林産物の販売) (10:00~12:00,13:00~16:00)	十勝広域森林組合参事 村上 悦朗	〃
10/18	金	討論	振り返り③	自国/担当地域の森林管理にかかる現状と 課題をテーマをもとにこれまでの研修振り返り (10:00~12:00,13:30~16:00)	JOFCA 参与 長縄肇	〃
10/19	土			休日		〃
10/20	日			休日		〃
10/21	月	講義 実習	森林資源の持続的利用 森林造成技術	間伐材利用促進(9:30~11:30) 森林修復のための技術(カニネツコンによる森林造成) (13:30~16:00)	(株)サトウ専務取締役 松永秀司 帯広NPO28サポートセンター理事長 千葉養子	〃
10/22	火	移動	(帯広→東京)			東京
10/23	水	表敬 講義	午前:日本の森林・林業の 概要 午後:日本の森林・林業に 関する制度	林野庁表敬訪問(P)(10:00~10:10) 講義:国有林の森林経営(10:30~12:00) 日本の保安林制度(13:30~15:30) (農林水産省4F会議室)	林野庁森林整備部長 古久保 英嗣 経営企画課 調査官 織田 央 治山課 善行 宏	〃
10/24	木	講義	午前:森林の生物多様性 保全の種々の状況 午後:日本の森林・林業に 関する制度	地球温暖化防止での森林の役割 (10:30~12:00) 森林組合制度の概要(13:30~15:30) (農林水産省4F会議室)	林野庁計画課海外林業協力室 課長補佐(森林吸収源推進班) 松本 康裕 経営課 宮課長補佐	〃
10/25	金	講義	森林保全と人間活動の共生	FSC森林認証取得森林における社会の便益増大に 寄与する林業経営の取り組み(10:30~12:00,13:00~15:30)	(株)多摩農林 小倉昭彦	〃
10/26	土			休日		〃
10/27	日			休日		〃
10/28	月	講義	午前:森林認証制度 午後:日本の森林・林業に 関する制度	ITTO プロセス(10:30~12:00) 日本の森林・林業に関する法制度(13:00~15:00) (林友ビル6F会議室)	ITTO Mr. Johnson 東京農業大学客員教授 澤登 芳英	〃
10/29	火	講義 実習	(東京←西武新宿線南大塚) 森林資源の把握	森林管理におけるGISの利用事例及びGIS実習 (13:00~17:00)	(株)朝日航洋 奥泉 敦	〃
10/30	水	講義	森林保全と人間活動の共生	治山技術(含む住民参加による森林の侵食防止) (10:30~12:00,13:00~15:30) (林友ビル6F会議室)	(株)森林テクニクス 業務課課長補佐 佐保 昇児	〃
10/31	木	講義	森林保全と人間活動の共生	持続的な森林管理の基準指標 (10:30~12:00,13:00~16:00) (林友ビル6F会議室)	東京大学農学部 教授 白石 則彦	
11/1	金	講義 交流	森林保全と人間活動の共生	持続可能な森林経営の確立(モデルフォレスト他)(13:00~17:00) 交流会(17:15~19:00) (林友ビル6F会議室)	JOFCA 会長 小澤 普照	〃
11/2	土					〃
11/3	日	移動	(東京→石垣島)			石垣
11/4	月			休日		〃
11/5	火	講義 視察	森林の生態・生物多様性	沖縄の森林の概要・保護林の概要 西表島の国有林(13:30~16:30) (場所:石垣地方合同庁舎)	九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター所長 上席自然再生指導官 井田 篤雄	〃
11/6	水	講義 実習	(石垣島←西表島) 森林の生態・生物多様性	マングローブ林の保全・保護 (10:00~12:00,13:00~16:00)	九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター所長 上席自然再生指導官 井田 篤雄 生態系管理指導官 吉田 真佐也 自然再生指導官 渡邊 昭 博 専門官 江口 頼雄	〃
11/7	木	講義 実習	(石垣島←西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義 熱帯林育種 13:00~15:00: クローン増殖技術実習	西表熱帯林技術園 園長 板鼻 直榮	〃
11/8	金	講義 実習	(石垣島←西表島) 森林の生態・生物多様性	10:30~12:00: 講義 熱帯林育種 13:00~15:00: クローン増殖技術実習	西表熱帯林技術園 園長 板鼻 直榮	〃
11/9	土		移動	(石垣島→帯広)		帯広
11/10	日					〃
11/11	月	討論		インテリムレポート作成(10:00~12:00,13:30~15:30)		〃
11/12	火	討論	インテリムレポート	コースリーダーによるインテリムレポートに関する指導 (10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA 参与 長縄肇	〃
11/13	水	討論	インテリムレポート	コースリーダーによるインテリムレポートに関する指導 インテリムレポート発表リハーサル・討論 (10:00~12:00,13:00~16:00)	JOFCA 参与 長縄肇	〃
11/14	木	討論	インテリムレポート	a.m. 評価会 p.m.インテリムレポート発表会	JOFCA 参与 長縄肇 JICA	〃
11/15	金	討論	インテリムレポート	インテリムレポート発表会・閉講式	JOFCA 参与 長縄肇 JICA	〃
11/16	土	その他		帰国		〃

年度別受入実績表

1. 応募／受入 人数

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	累計
応募数	17名	17名	22名	56名
受入数	14名	15名	14名	43名

2. 研修員の出身国

○男性 ●女性

国名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	累計
アルメニア	●	○		2名
ブルキナファソ	○○○	○○○	○○	8名
中華人民共和国	○	●		2名
エチオピア	○○	○	○	4名
ガーナ	○○	○		3名
インド			○	1名
ケニア	○○	○○	○	5名
ラオス			○	1名
マラウイ			●	1名
モザンビーク		○		1名
フィリピン	○○	●		3名
スリランカ	●	○		2名
ミャンマー		●	○	2名
ネパール			○	1名
パプアニューギニア			○	1名
タンザニア			○	1名
東ティモール			●○	2名
カンボジア		○	●	2名
タイ		●		1名
計	8ヶ国 14名	12ヶ国 15名	12ヶ国 14名	19ヶ国 43名



独立行政法人国際協力機構 北海道国際センター（帯広）
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp